

北京五輪新たな火種

米大統領 外交ボイコット検討

バイデン米大統領は18日、2022年2月の北京冬季五輪に選手団以外の外交使節団を派遣しない「外交的ボイコット」を検討していると明言した。新疆ウイグル自治区などでの中国の人権弾圧が理由で、米中関係に新たな火種が加わった。日本や欧州などが追随する

かどうかが焦点になる。バイデン氏は記者団から北京五輪の外交的ボイコットを検討しているかを問われ「検討している」と答えた。近く正式に決める見通しだ。選手団は派遣するもようだ。米紙ワシントン・ポストによると、バイデン政権は同盟国や友好国に同調を求

めず、各国が個別に判断すべきだとの立場だ。中国外務省の趙立堅副報道局長は19日の記者会見で「スポーツの政治化はオリンピック精神に反し、各国選手の利益を損なう」と反発した。北京五輪をめぐっては、欧州議会が7月、中国が人権問題を改善する

姿勢を示さなければ欧州連合（EU）の機関や加盟国に政府代表や外交官が招待に応じないよう求める決議を可決した。英議会も7月に人権問題が解決しない限り外交的ボイコットをすべきだとの動議を通じた。中国の習近平（シー・ジンピン）指導部は外交ルートを通じて、日本や英国、韓国などに五輪への協力と参加を積極的に呼びかけている。（ワシントン＝坂口幸裕、北京＝羽田野主）